

厚生労働科学研究費補助金 「難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業」

# 職域における慢性ウィルス性肝炎患者の 実態調査とそれに基づく望ましい配慮の 在り方に関する研究

東海大学医学部 基盤診療学系公衆衛生学  
渡辺 哲

# 職域における肝炎対策の必要性

40歳以上では肝炎ウイルスキャリアが1%前後

- 多くは無症状なため知らないうちに進行
- 職場での肝炎検査は早期発見の糸口

早期発見、早期治療が重要

- 肝炎ウイルスに対する有効な治療法が存在



**職域における肝炎検診の意義は大きい！**

# 本研究で明らかにする項目

- ① 労働者のプライバシーに配慮した肝炎ウイルス検査実施状況
- ② 働きながら治療を受けられる体制の有無
- ③ 労働者の病状に配慮した適正配置の有無
- ④ 労働者の慢性ウイルス性肝炎に関する認識度
- ⑤ 専門医、労働者、産業医間の連携

職域における望ましい肝炎対策のあり方を提示する

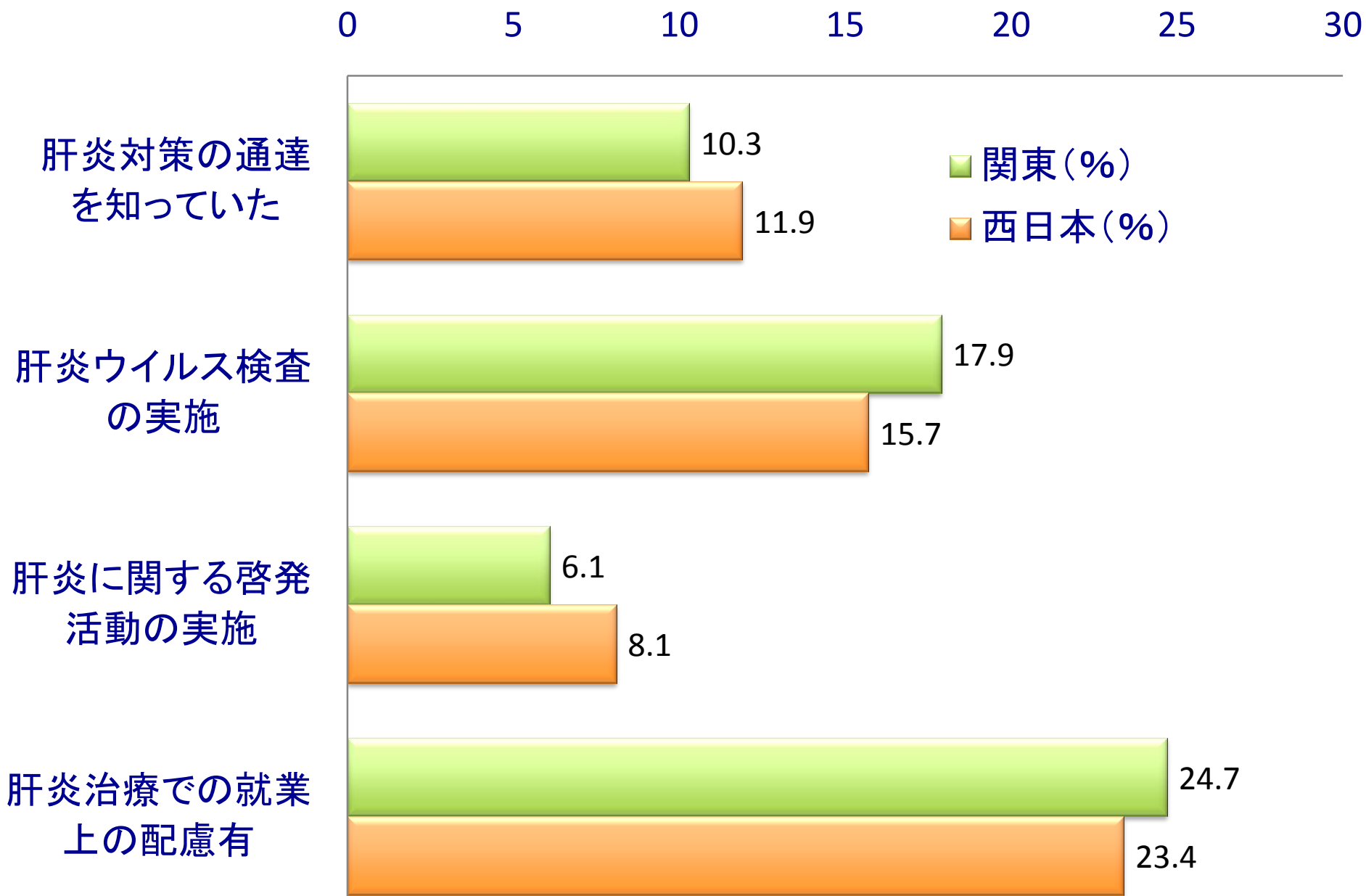
# 企業、事業者を対象とした調査

- 関東地方の事業者(本社、事業所)から全従業員数が50人以上で、業種、企業規模の分布が全国と同じになるよう25,000箇所を抽出  
→回収数7,109(回収率29.1%)
- 中京、西日本の24府県の事業者25,000箇所を抽出  
→回収数9,349(回収率38.2%)

## 肝疾患相談センターにおける就労相談についての実態調査

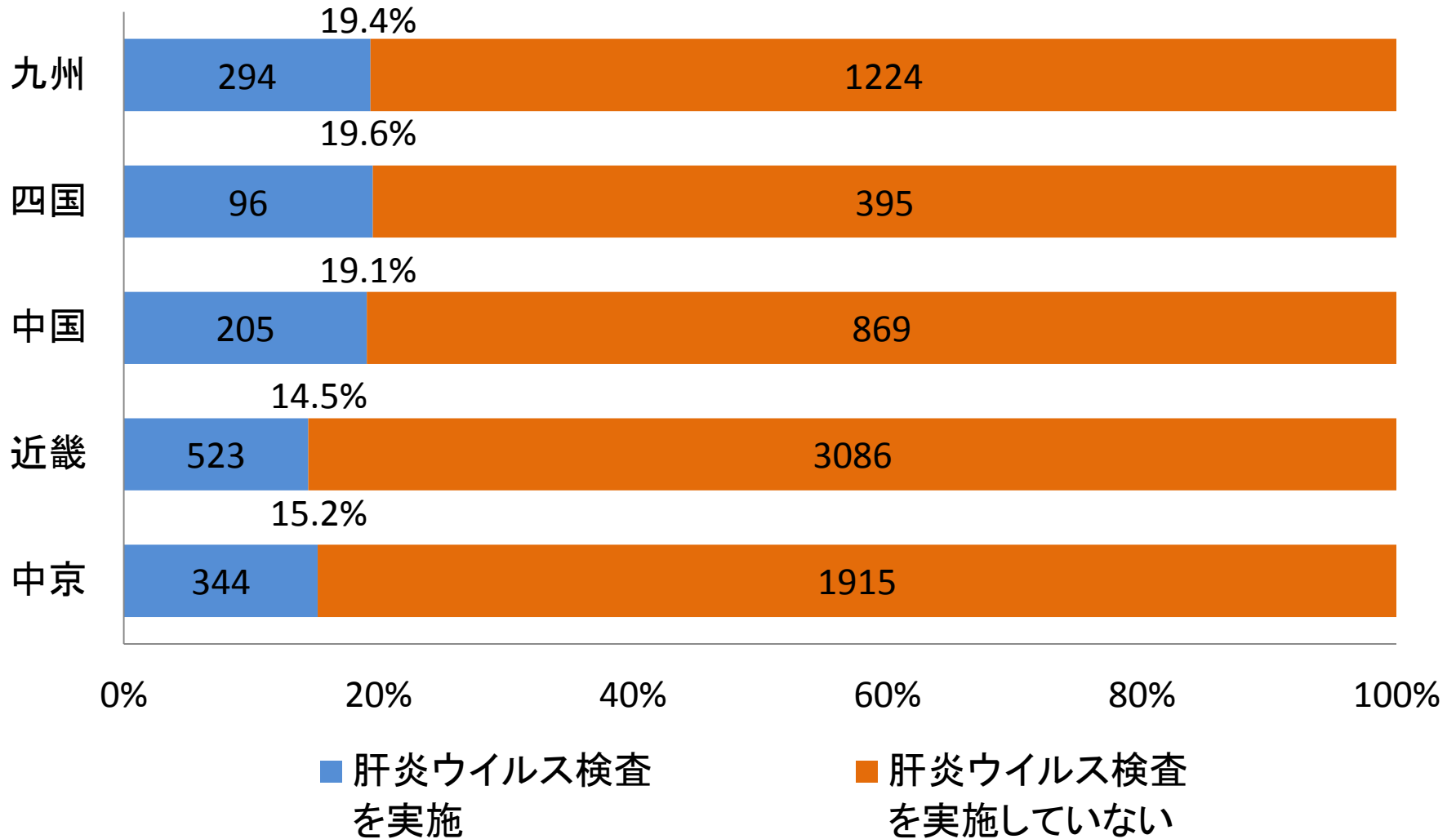
- 全国70施設に調査票を送付し、60施設から回収(回収率86%)

# 企業、事業者を対象とした肝炎対策の実施状況(1)



# 西日本での地域比較

## -肝炎検査の実施状況-



# 企業、事業者を対象とした肝炎対策の実施状況(2)

## 従業員規模

1000人以上

37.3%

151

247

43.5%

176

226

500人～1000人未満

30.0%

118

272

35.9%

141

250

100～500人未満

18.3%

444

1966

23.6%

573

1824

50～100人未満

14.9%

362

2056

22.2%

540

1856

50人未満

13.6%

194

1221

20.5%

322

1075

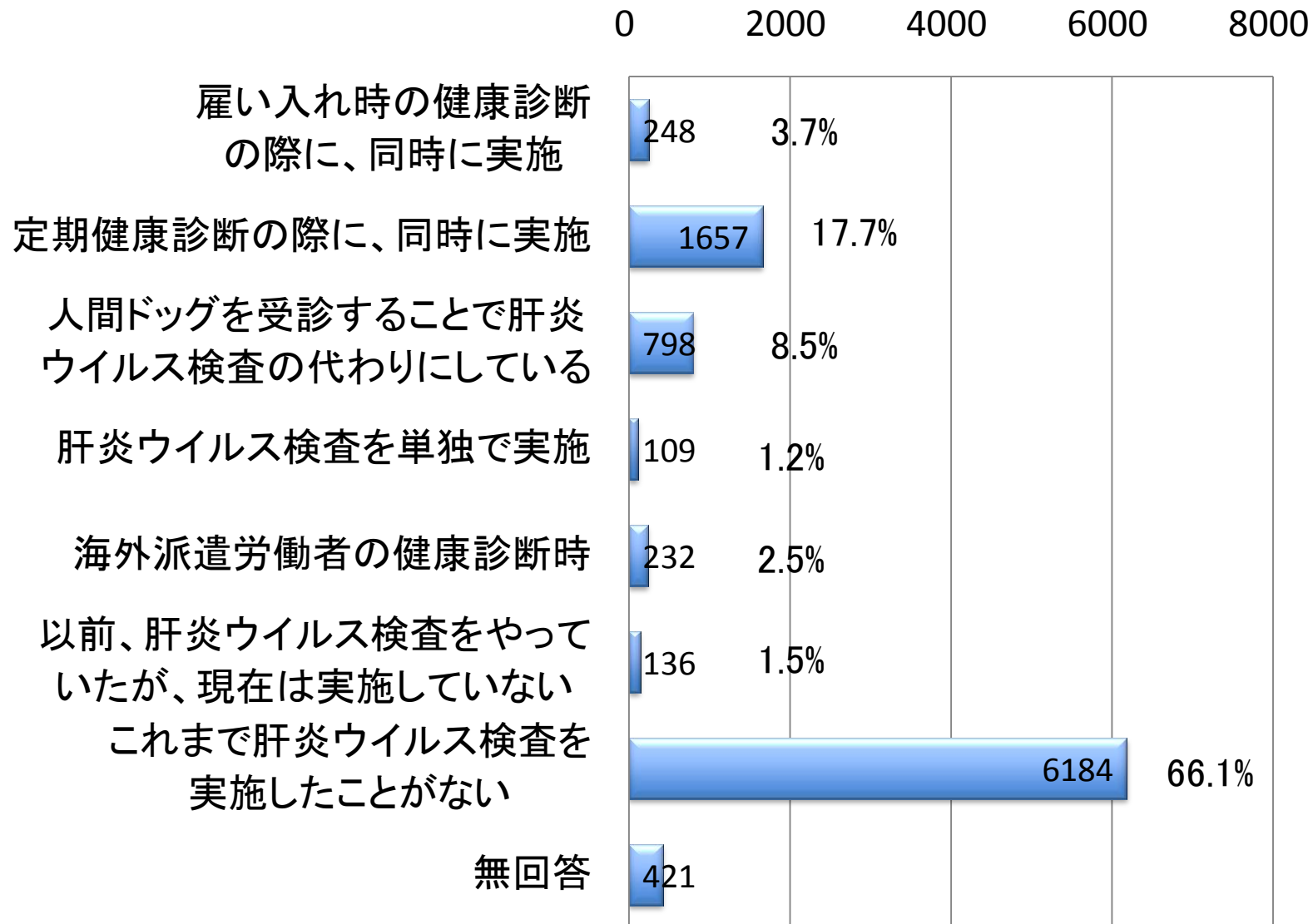
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 肝炎ウイルス検査を実施 ■ 肝炎ウイルス検査を実施していない

■ 就業上の配慮あり ■ 就業上の配慮なし

# 肝炎ウイルス検査の実施状況

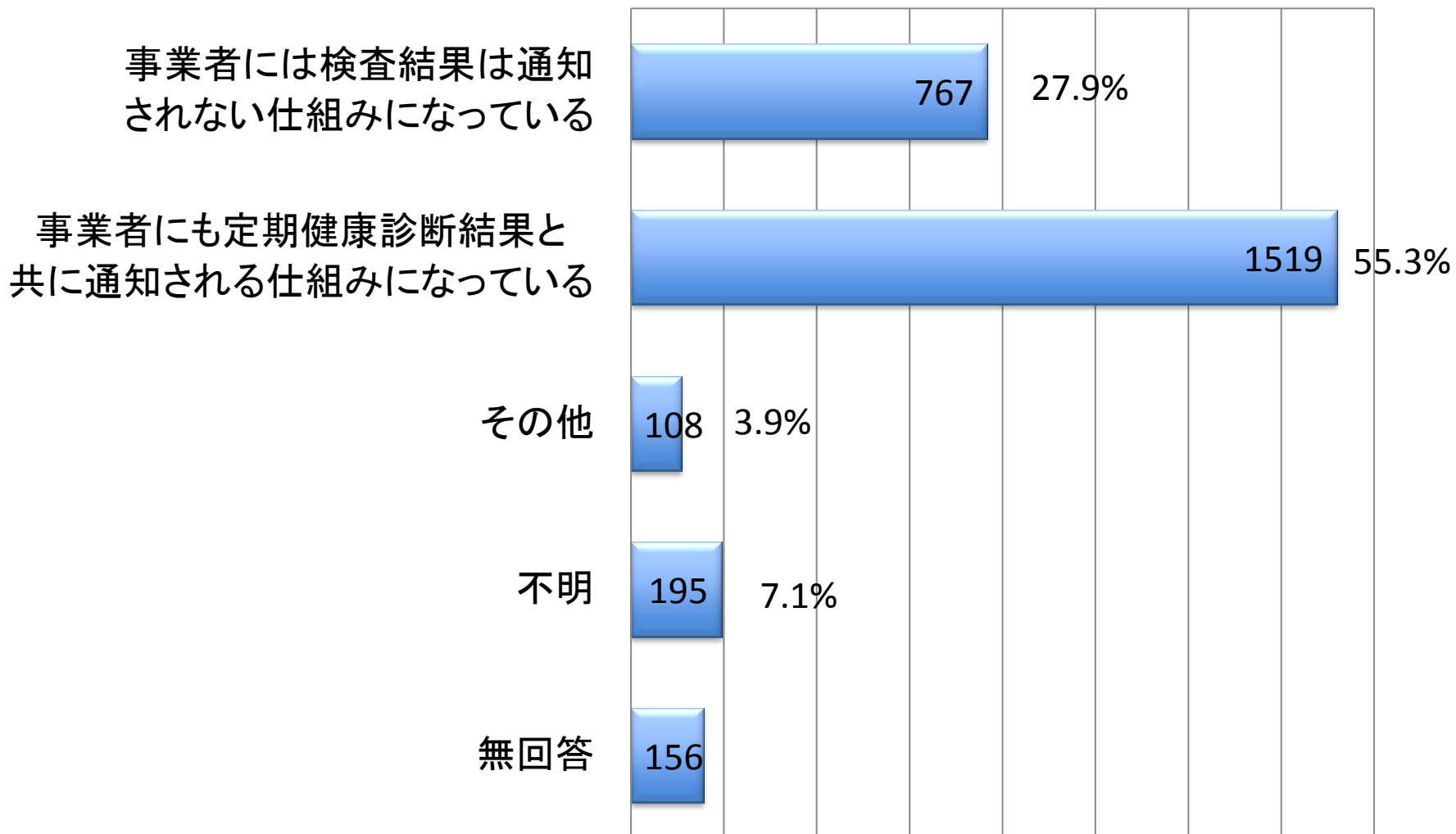




# 肝炎ウイルス検査の実施状況

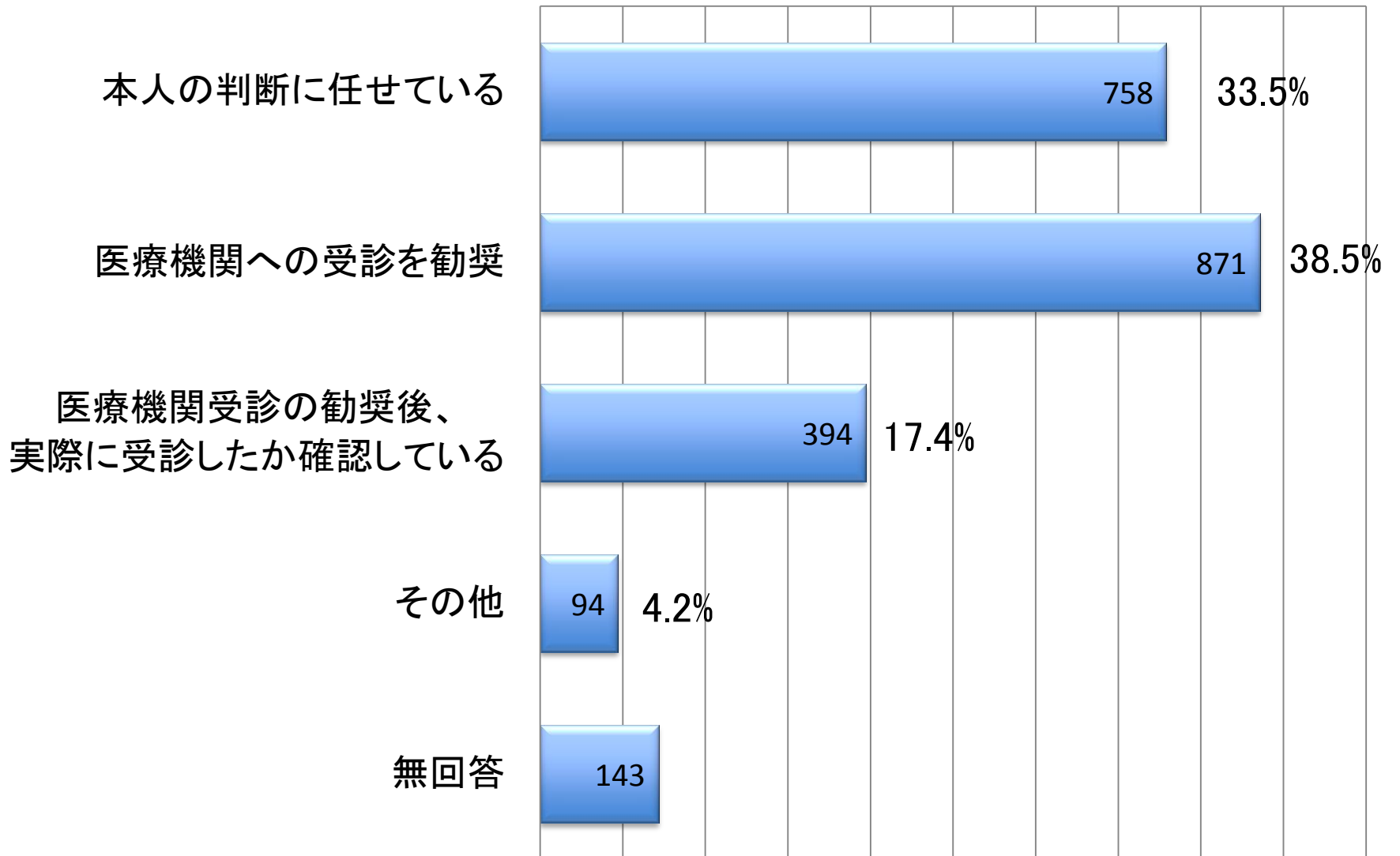
-肝炎ウイルス検査の結果通知方法 (n=2745)-

0 200 400 600 800 1000 1200 1400 1600

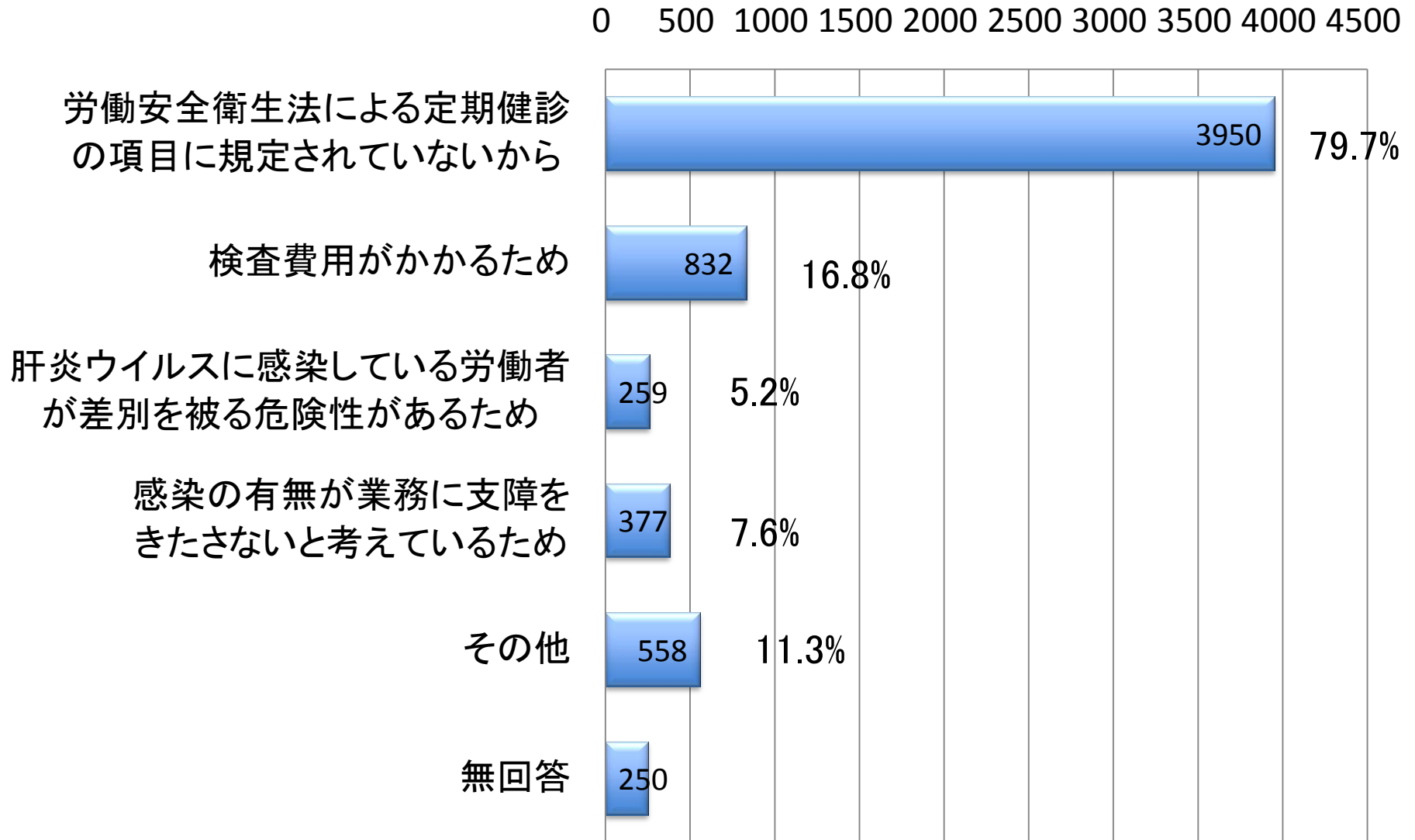


# 検査後のフォローアップ (n=2260)

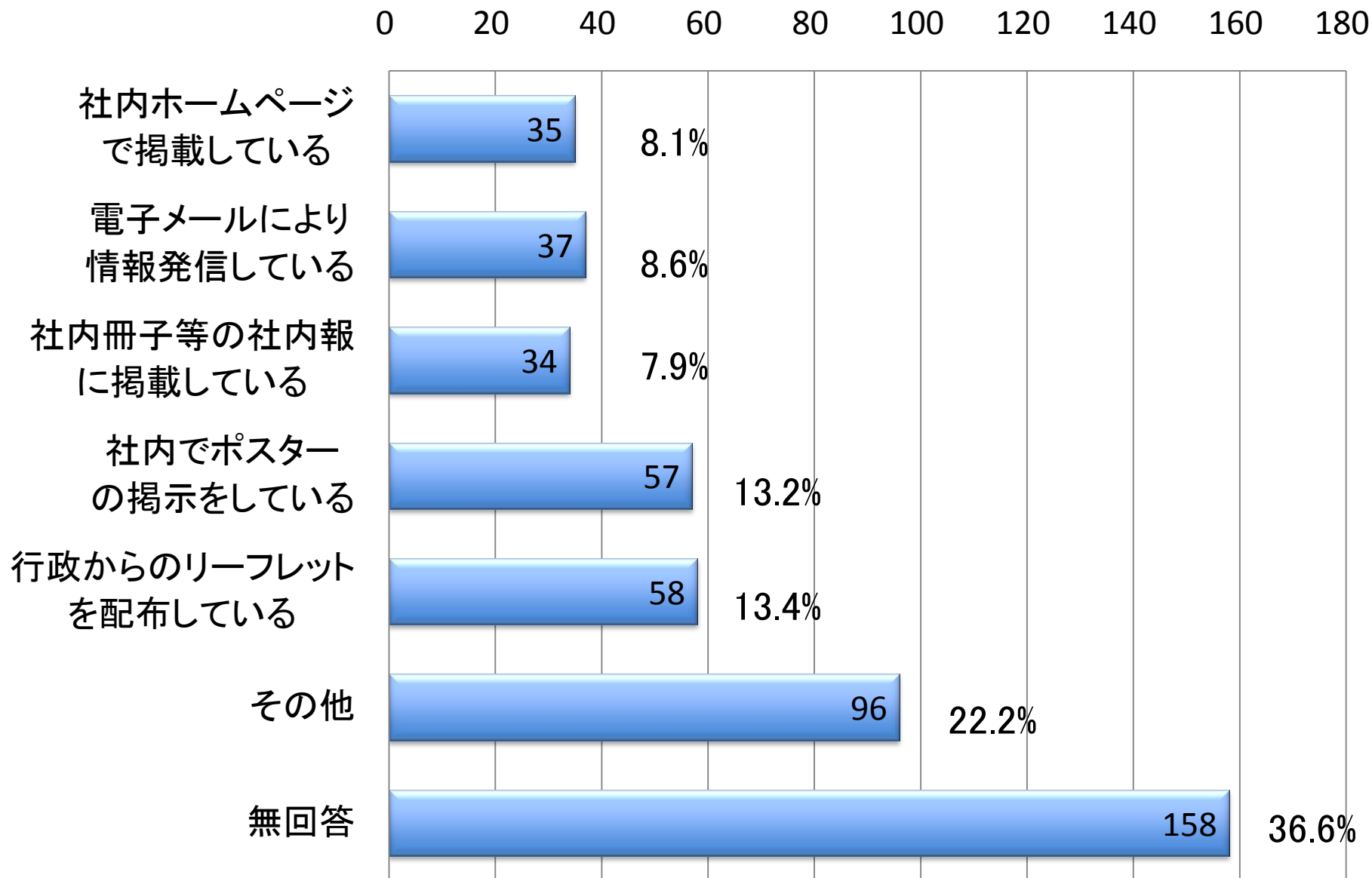
0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000



# 肝炎ウイルス検査を実施していない理由 (n=4955)

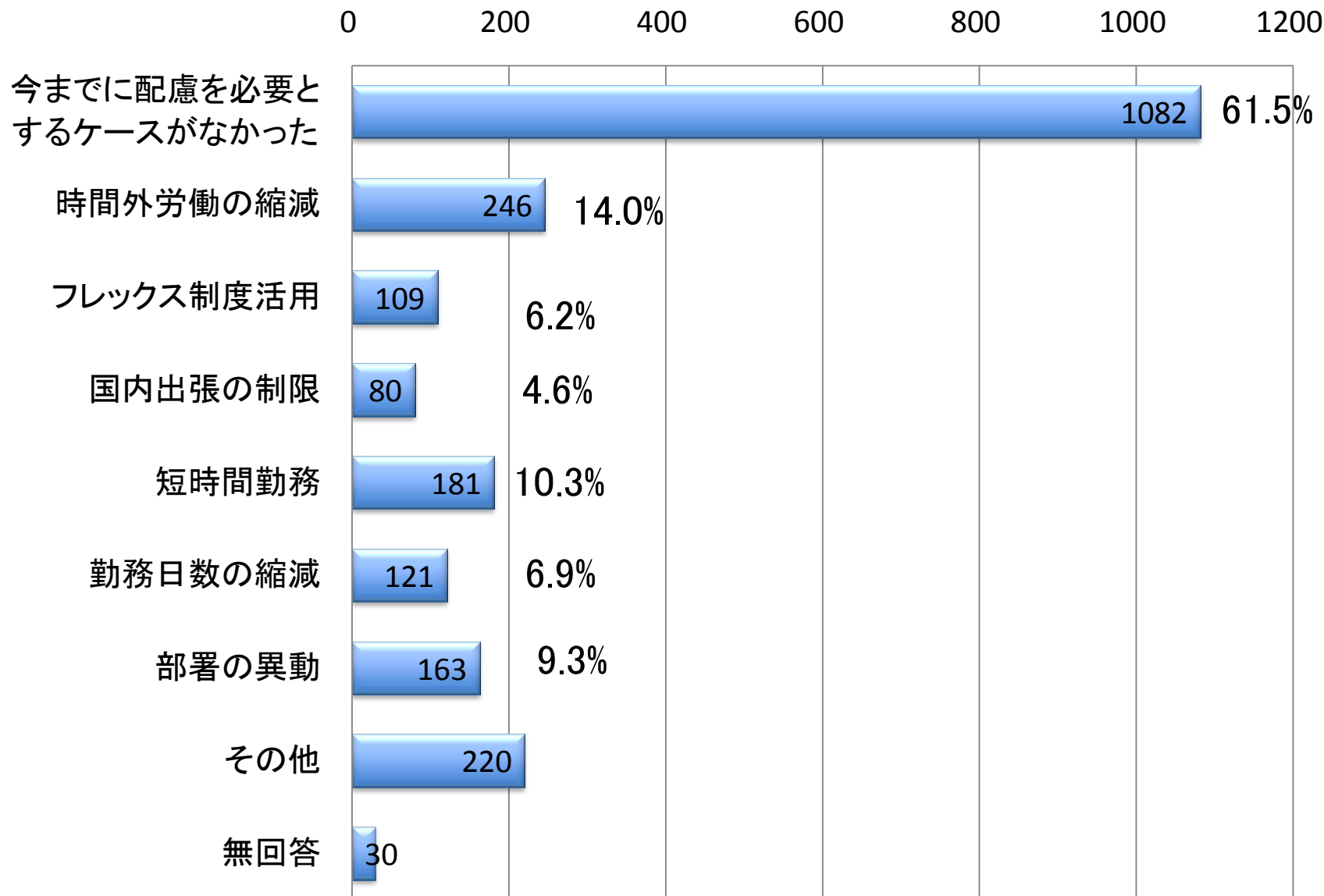


# 啓発活動の実施状況 (n=432)



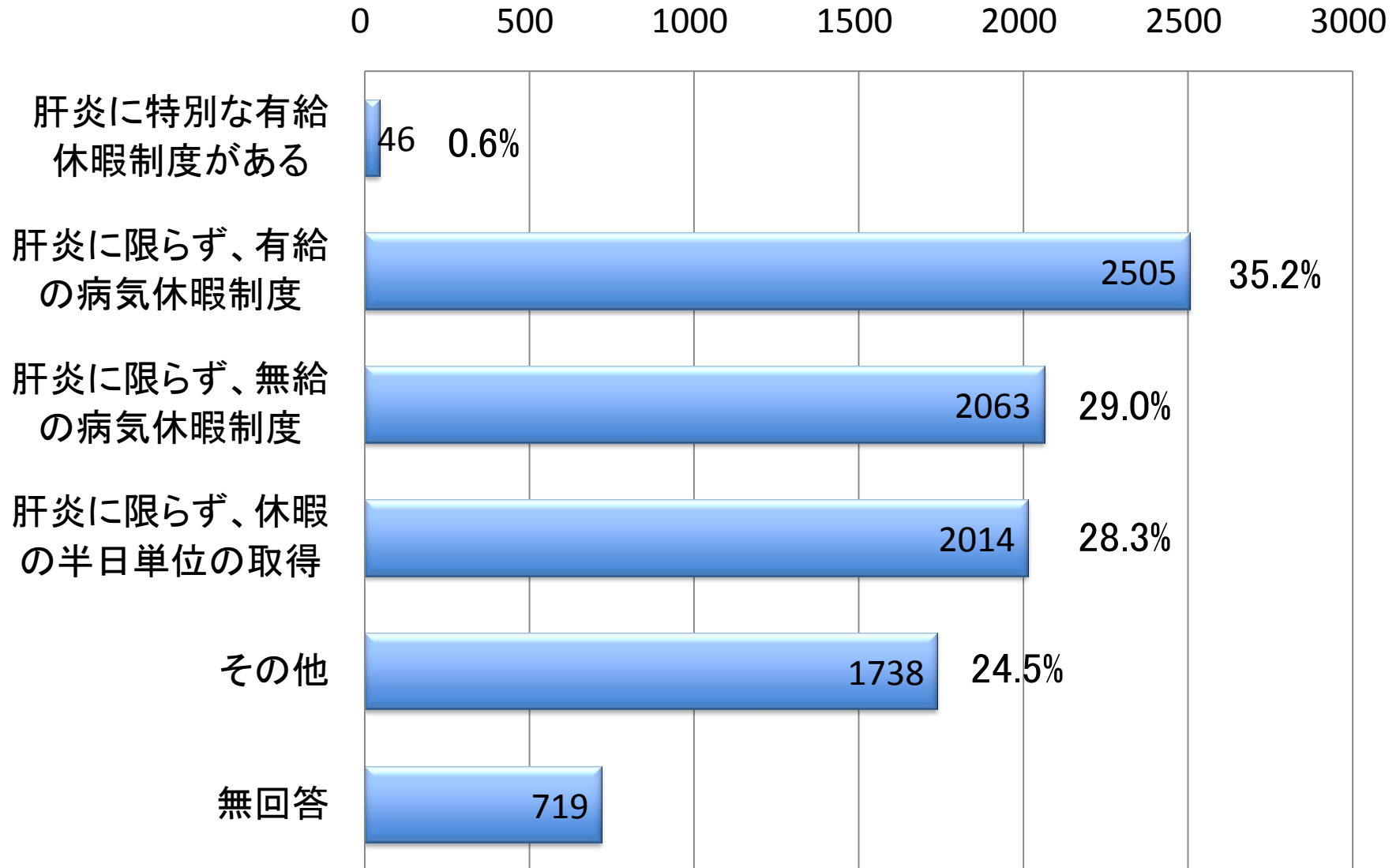
# 肝炎の治療が必要な従業員について

## -就業上の配慮の内容 (n=1758)

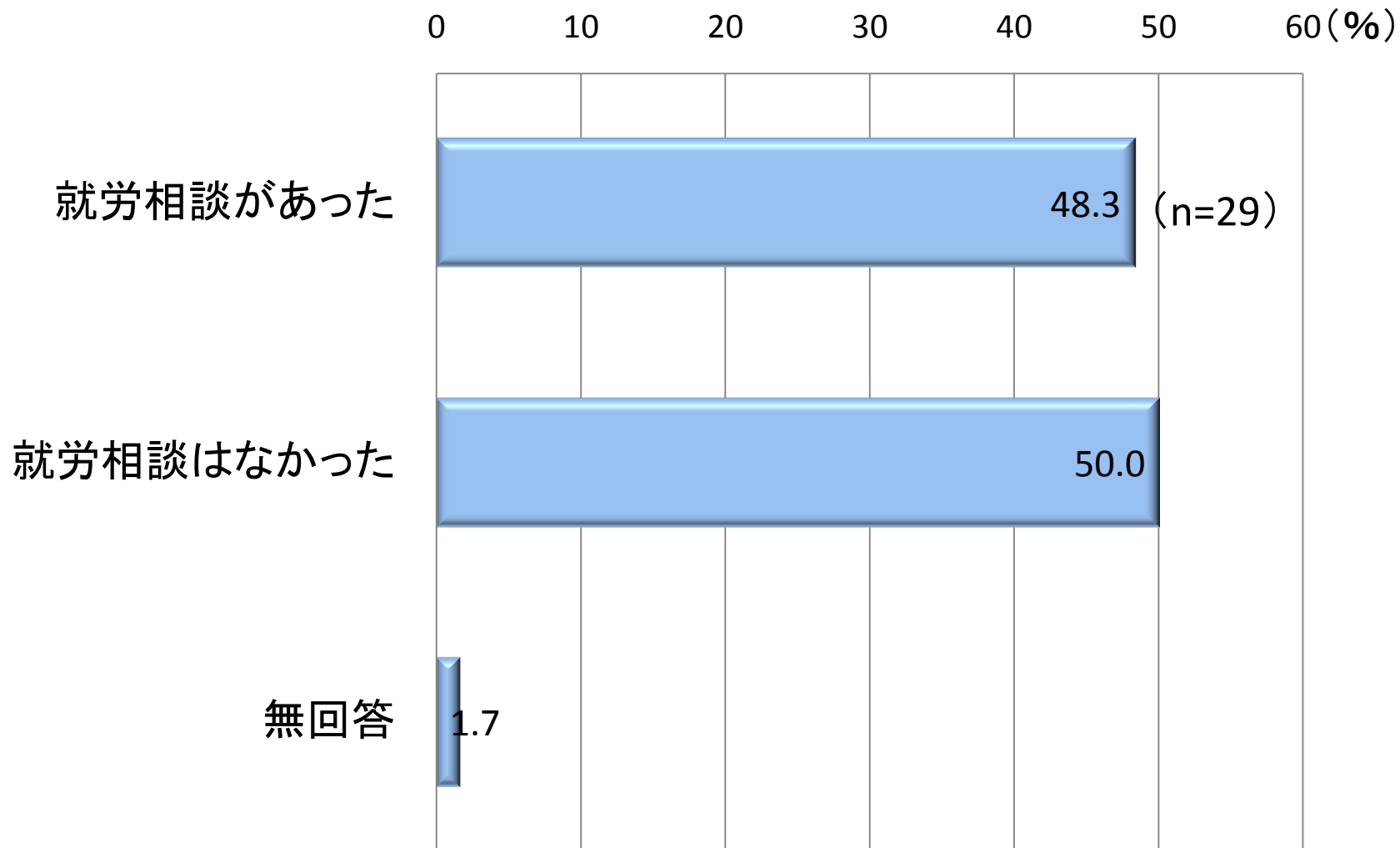


# 肝炎の治療が必要な従業員について

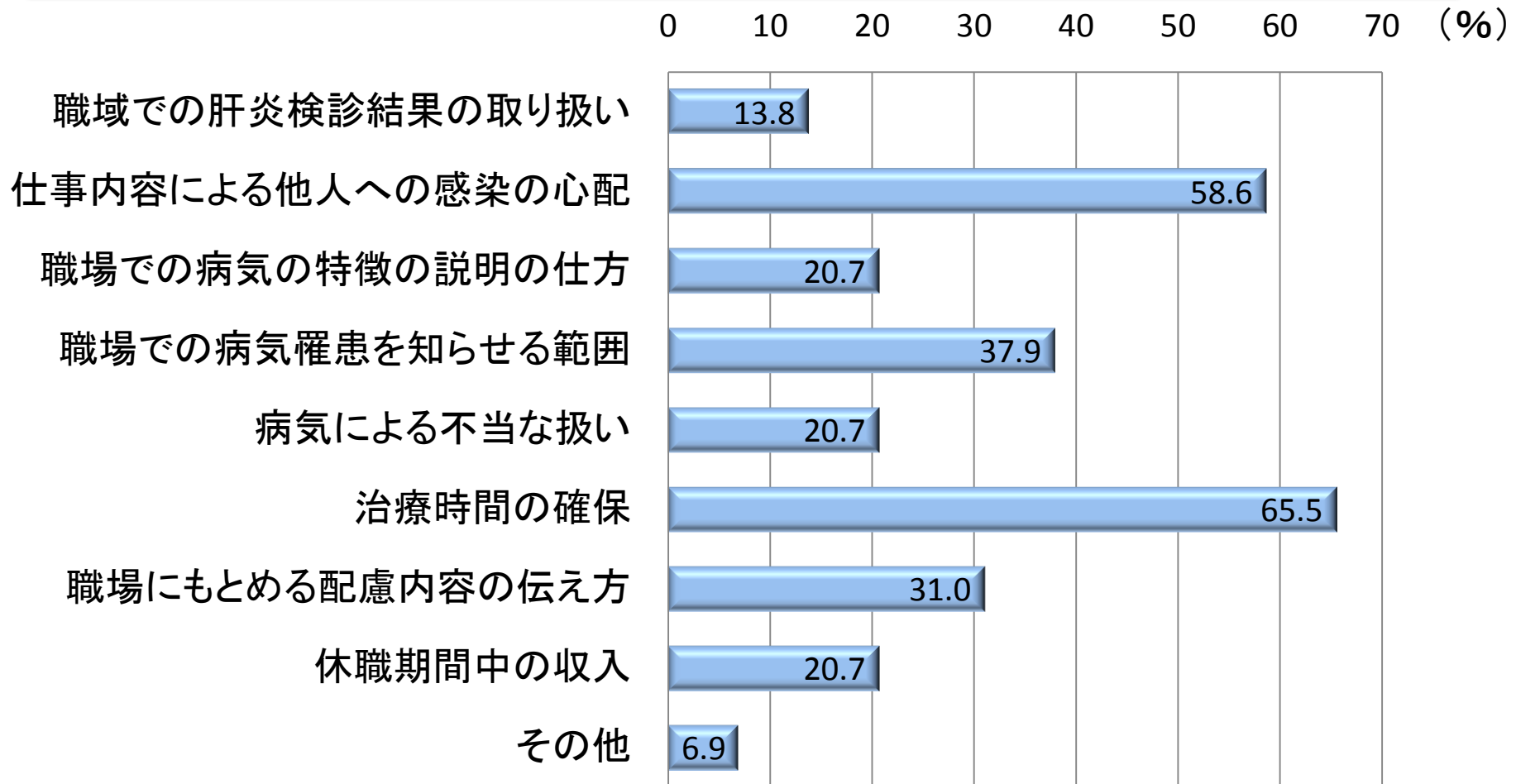
## -病気休暇制度の内容-



# 肝疾患相談センターでの就業者からの 就労相談の有無



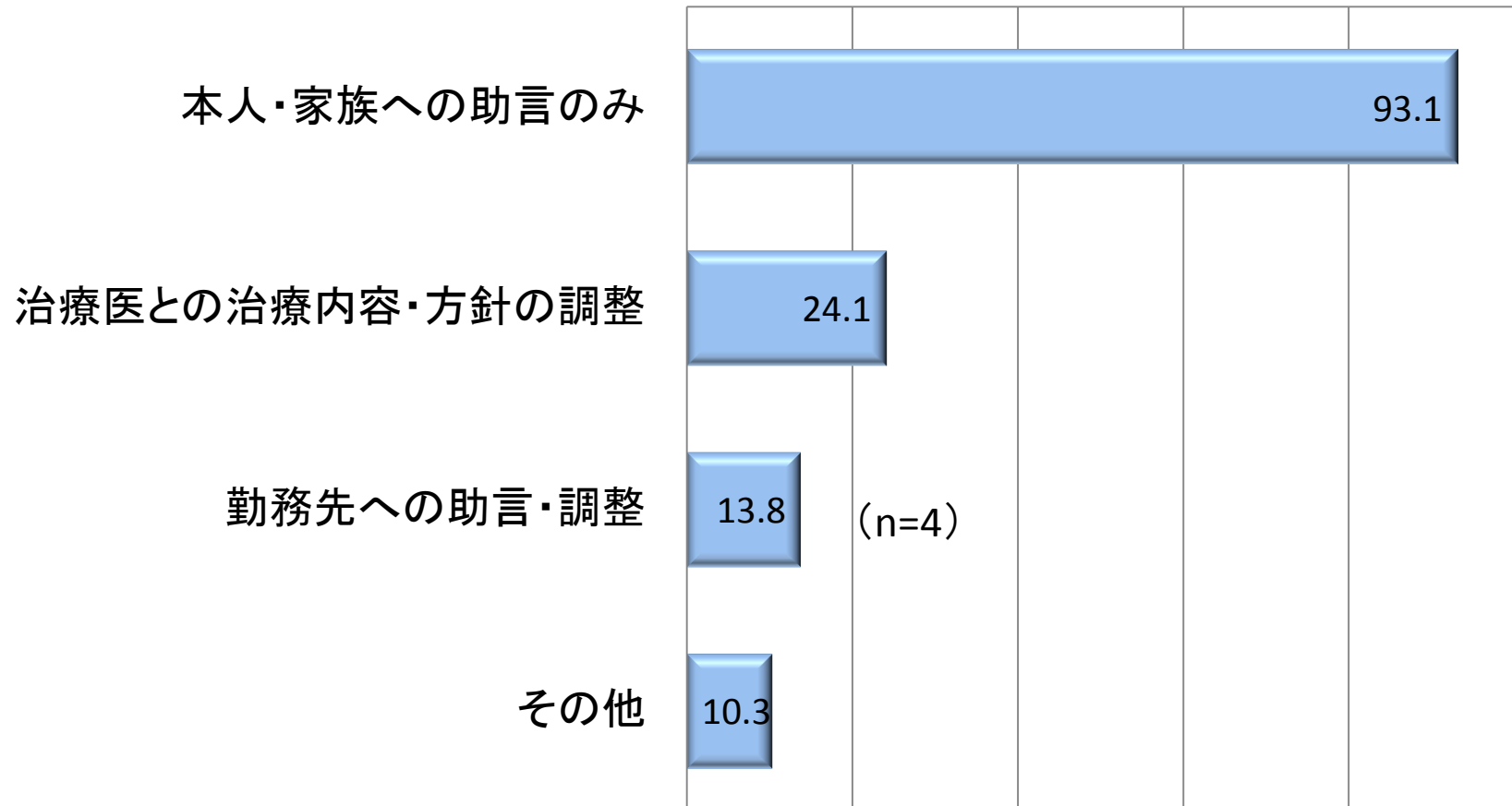
# 肝疾患相談センターでの就労相談の内容 (n=29、複数回答)



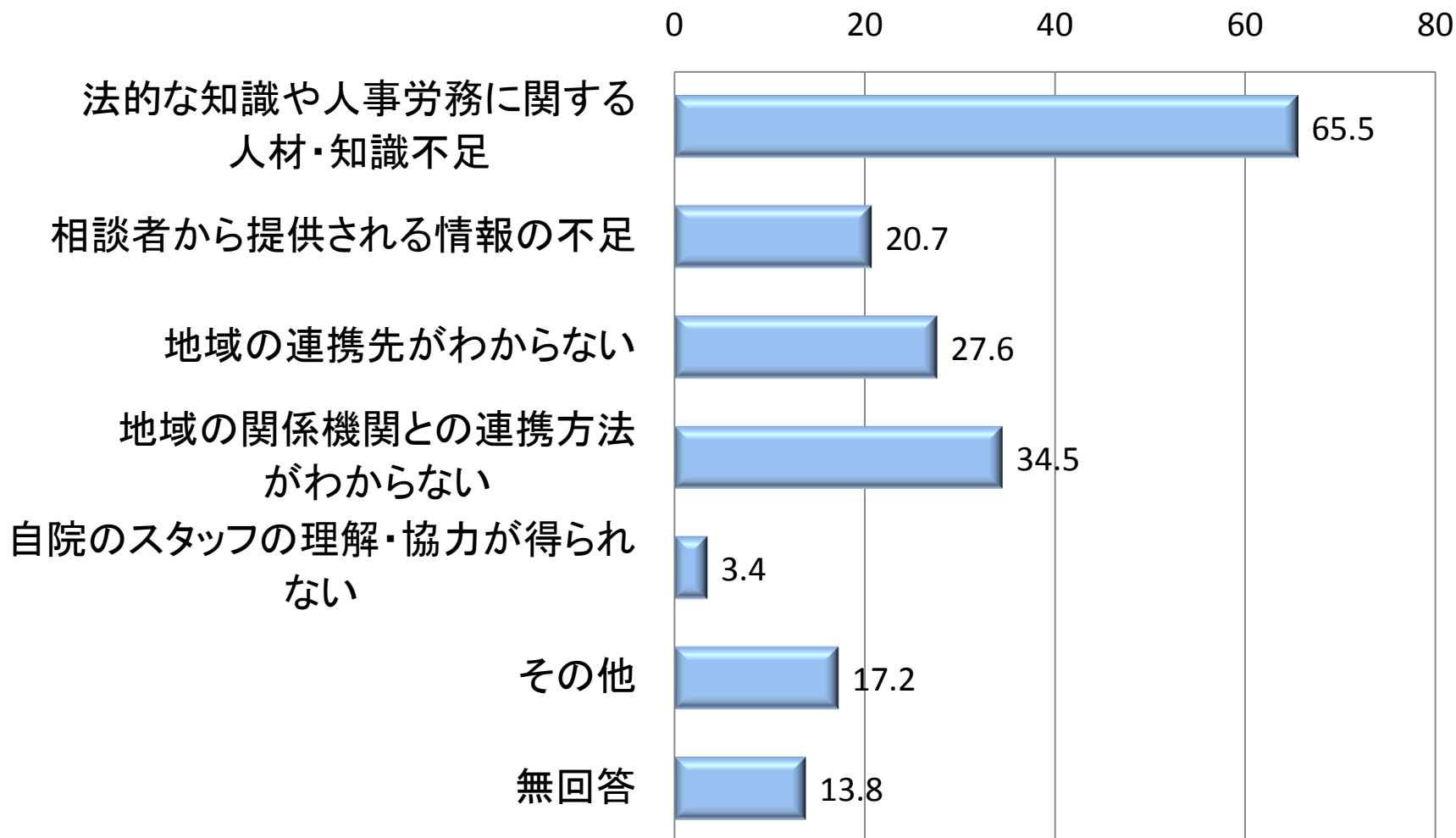


# 就労相談への対応 (n=29、複数回答)

0 20 40 60 80 100 (%)



# 就労相談を受ける際の課題(複数回答)



# 一般労働者、肝炎労働者の調査

(研究分担者 和田耕治)

## 1. 一般労働者における肝炎の基礎知識と偏見に関する調査(平成23年度)

- 働く世代(20歳から69歳)の一般労働者3000名を対象に肝炎に関する基礎知識、検査受診の有無、職場における偏見についてインターネット調査を行った。

## 2. 肝炎労働者の調査(平成24年度)

- 働く世代でB型肝炎、C型と診断されたことがある肝炎患者(20歳から69歳)、各156名ずつ、男女比が1:1になるように合計312名を対象とし、インターネット調査を行った。

# 一般労働者に対する調査結果の概要

調査項目	% (n=3219)
1. 肝炎ウイルスの検査をこれまでに1度以上受診した	21.3(40歳以上では28.7)
2. 検査を受けた理由	
① 人間ドック・住民健診・住民がん検診などで追加で行えたから	36.2
② 会社の健診項目に含まれていたから	19.2
3. 肝炎ウイルス感染者が職場にいた場合	
何となく不安に思う	36.0

# 肝炎患者労働者に対する調査結果の概要

調査項目	% (n=312)
1. B型/C型肝炎ウイルスの感染が明らかになった理由	
① 体調不良で受診した際に指摘されたから	29.8
② 会社の健康診断で指摘されたから	18.6
③ 献血で指摘されたから	18.3
2. ウイルス性肝炎の受診状況	
① 定期的に受診していない	36.9
② 3か月に1回程度受診している	19.2
③ 年に1回程度受診している	17.6
3. 職場で偏見を感じる	15.4
4. 他の人に感染させてしまうのではないかと不安である	30.1
5. ウイルス性肝炎であることをだれにも開示していない	41.0 (HBV) 29.5 (HCV)
6. 職場で受けている配慮(通院・服薬管理等、n=202)	27.2(HBV) 39.1(HCV)

# ウイルス性肝炎に罹患した労働者の就業と健康に関する産業医の調査(研究分担者 堀江正知)

**目的** 肝炎ウイルス検査及び肝炎に罹患している労働者の健康管理体制に関する実態や好事例について事業場や産業医を対象に調査を実施し、望ましい健康管理体制について全国の職場が活用できるデータベースを開発する。

**方法** 好事例の収集

**結果** 職域の肝炎対策文献調査(平成23年度) → 21文献収集  
職域の肝炎対策事例調査(平成23年度) → 54医師、87例収集  
→ 「産業医による望ましい対応」のフローチャート案作成  
→ 課題：産業医による積極的介入の是非・就業の可否判断

好事例の実態把握

肝炎労働者への望ましい対応に関する意見調査(平成24年度)  
→ 専門的な産業医352人(回答率44%)

好事例の普及

データベースの開発(平成25年度)

# 好事例のまとめ

## ウイルス肝炎に罹患した労働者の健康管理（医師の役割）

### 1 正しい知識の啓発

職場でウイルス肝炎に罹患するリスクが小さいことやウイルス肝炎は働きながら治療できることについて、使用者と労働者に教育すること

### 2 潜在的未治療者への受診勧奨

通院中断、未受診者に介入し、早期治療につなげること

### 3 治療継続を円滑に行うための措置

産業医と職場上司や人事担当者が協力して、IFN治療等を受けるために必要な就業上の配慮や治療に伴う副作用に対する就業上の配慮を行うこと

### 4 病状悪化時に措置を講じる際の職場との連携

産業医が、プライバシーに配慮しながら、職場上司や人事担当者と協力して仕事を本人の症状に適應させられるように努めること

# 専門的産業医を対象とした実態調査の結果

## 1 産業医の肝炎検査結果への関与の実態

積極関与 44% = 消極関与 44%

## 2 肝炎検査結果の取扱いに関する政策への意見

積極関与 57% > 消極関与 35%

## 3 無症候性キャリアに対する保健指導

窓口設置 38% > 受療確認 35% > 定期面談 16%

## 4 肝炎の病態に応じて講じるべき就業上の措置

就業制限：肝硬変、肝がん、IFN治療中

就業負荷：化学物質、営業・接客、発展途上国出張、長時間労働、夜勤・交替勤、長期出張等が挙げ

られた




## 職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査と それに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究

HOME

文献検索

好事例集

労働者への配慮に関する意見調査



職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査と  
それに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究班のホームページです。

### 研究目的

Purpose of research

職域においてウイルス性肝炎の検査を実施することは、感染者の早期発見の手段として有用であり、肝硬変や肝癌への進展に対して、早期介入ができると考えられる。しかし、わが国の労働者のウイルス性肝炎に関する知識・認識や、ウイルス性肝炎の検査、ウイルス性肝疾患に罹患した労働者への就業上の配慮についてその実態は明らかでない。本研究では、平成23年度から3年間の予定でこれらの実態を明らかにするための調査研究を行う。

## 職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査と それに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究

HOME

文献検索

好事例集

労働者への配慮に関する意見調査

### 文献検索

産業保健分野における肝炎対策について、PubMed、メディカルオンライン、医中誌、CiNiiの文献データベースを検索し、国内文献20件、海外文献1件を抽出した。それぞれの文献の要約を紹介する。

フリーキーワードで文献を検索できます

検索

キーワード:

B型肝炎ウイルス

C型肝炎ウイルス

慢性肝炎

肝硬変

トランスアミナーゼ

血小板

有害業務

個人情報の管理

産業医

肝炎労働者

飲酒

作業関連要因

肝炎増悪

職場健診

肝炎ウイルス検査

看護スタッフ

慢性透析施設

感染事故対策

有機溶剤

職業性曝露

健康管理

安全配慮義務

差別と偏見

肝機能異常

既往歴

海外赴任

開発途上国

A型肝炎ウイルス

若年層

1980-1989年発行

1990-1999年発行

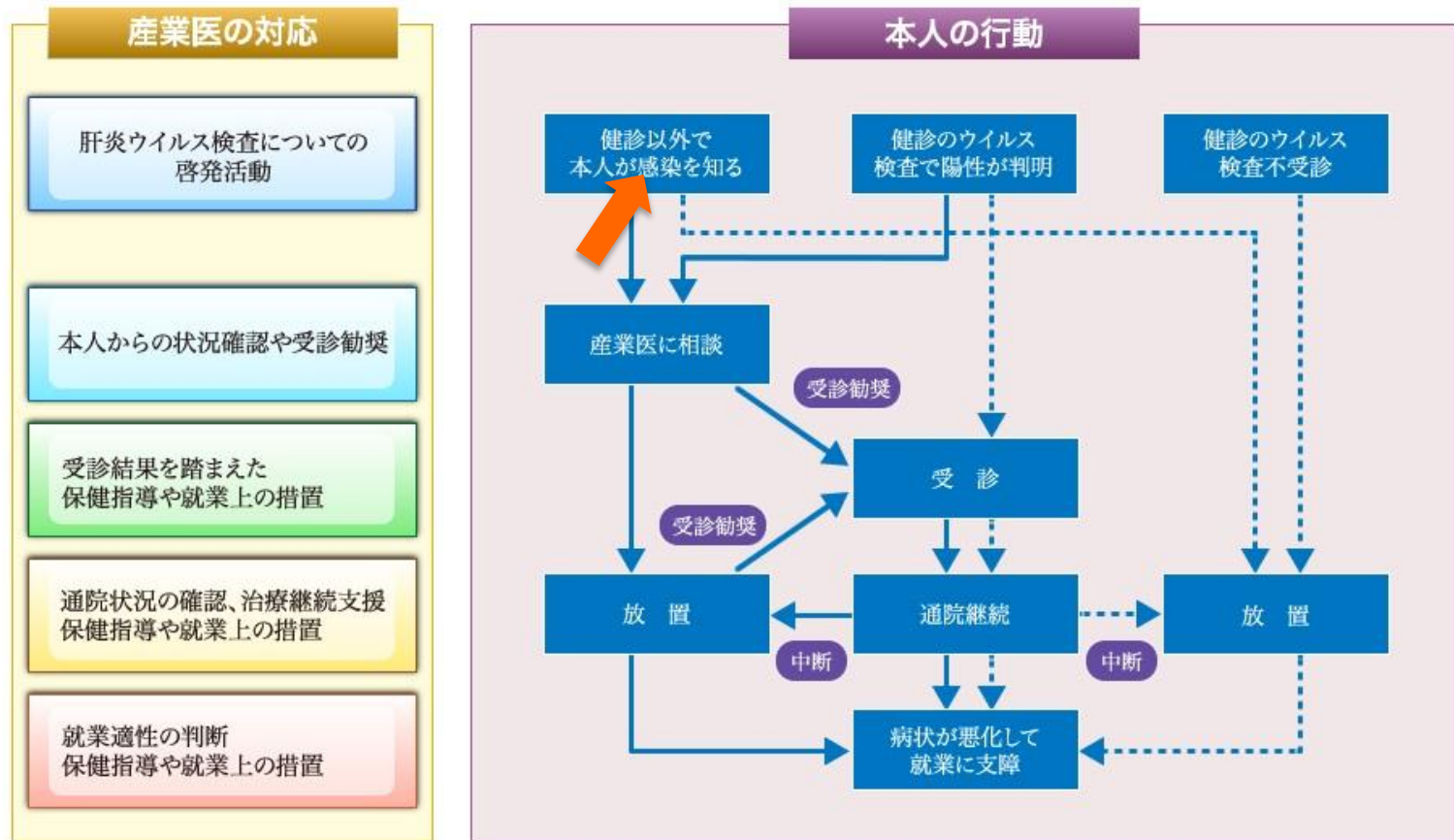
2000-2004年発行

2005-2009年発行

全例

産業医の対応フローチャートから検索

ウイルス性肝炎に罹患した労働者の健康管理に関する  
フローチャート



注) 肝炎ウイルス検査を受けた者は全て、陽性が陰性かが判明すると仮定する。

—— 産業医が関知する場合

..... 産業医が関知しない場合



産業医の対応フローチャートから検索

ウイルス性肝炎に罹患した労働者の健康管理に関する  
フローチャート

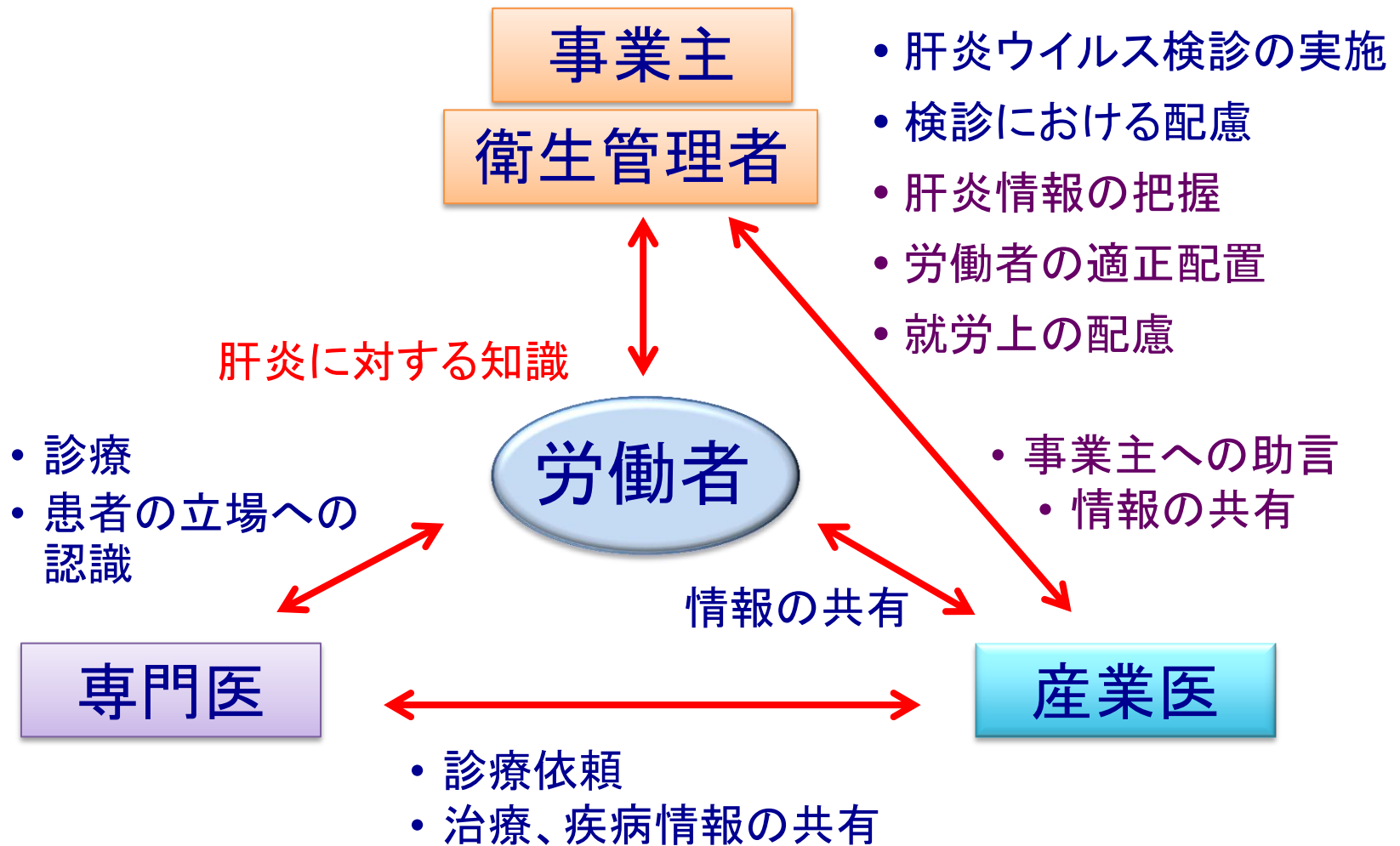


注) 肝炎ウイルス検査を受けた者は全て、陽性が陰性かが判明すると仮定する。

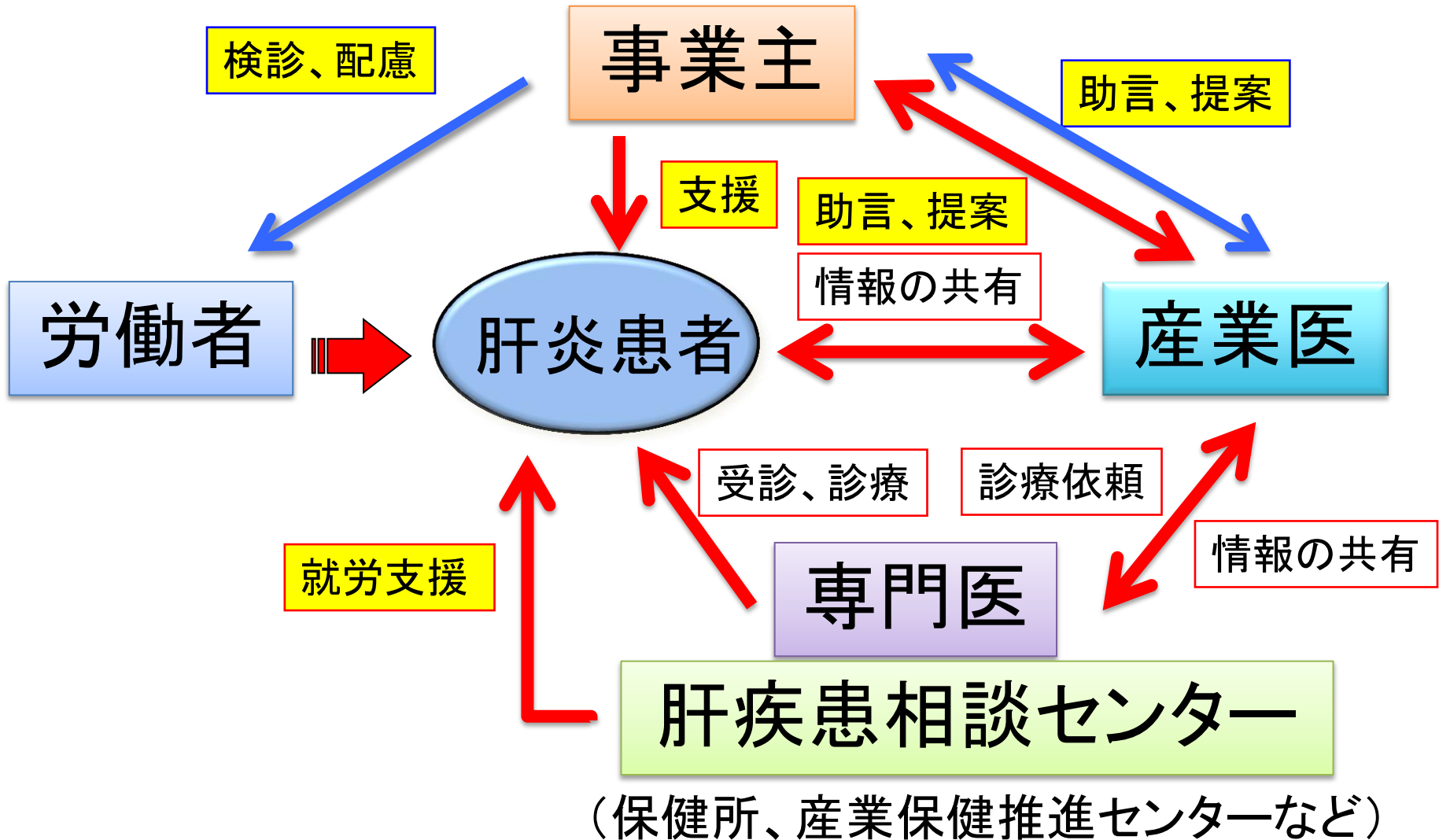
—— 産業医が関知する場合

..... 産業医が関知しない場合

# 職域における肝炎対策の課題



# 地域・職域連携モデルの例



# まとめ

- 肝炎検診に対する通達の周知度や職場での肝炎ウイルス検査の実施率は全体に低かった。
- 肝炎ウイルス検査の実施状況や就業上の配慮ありの割合は、小規模事業場ほど低かった。
- 肝炎患者労働者のうち約37%は医療機関を受診していなかった。
- 産業医が積極的に関与する場合は好事例が多くみられた。
- 肝炎患者労働者の就労支援には、労働者を中心に産業医や肝疾患相談センター、産業保健推進センター、保健所などの連携が必要である。